マリンレジャー安全レポート

第37号（平成20年8月）

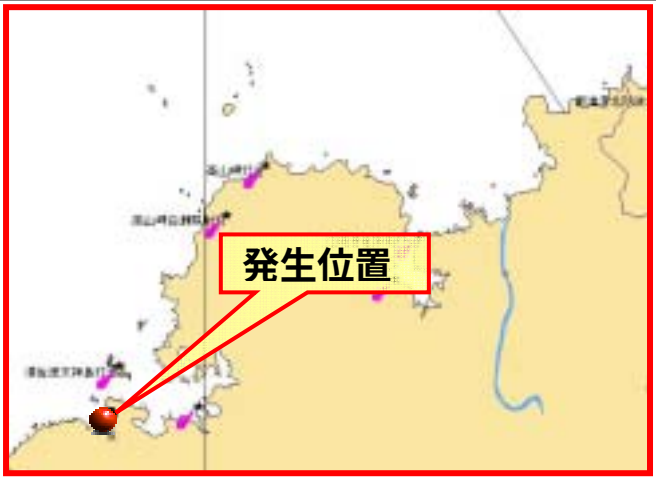
第七管区海上保安本部
マリンレジャー安全推進室
TEL　093-321-2931
E-mail:kyuunan7-m8ev@kaiho.mlit.go.jp

高い波と自分の体力には十分注意しましょう！

Ａさん（事故者、６４歳）は、７月６日午前１１時２０分頃から萩市の「萩エコロジーキャンプ」海浜で１人で遊泳を始めました。その後午後０時頃になり、同海浜の５０ｍ沖合いでゴーグルを外して遊泳中に、比較的高い波が近づいてきたことから、ゴーグルを着けようとしたところ、それが間に合わず、波にのまれで目が見えなくなったことから、パニック状態になり溺水したものです。同海浜で遊泳していた男性２名が、溺れもがいているＡさんを発見し、浮き輪を持って救助に向かい、Ａさんを確保して陸上まで搬送しています。その時にたまたま居合わせた看護士が心肺蘇生法を行い、無事蘇生しています。

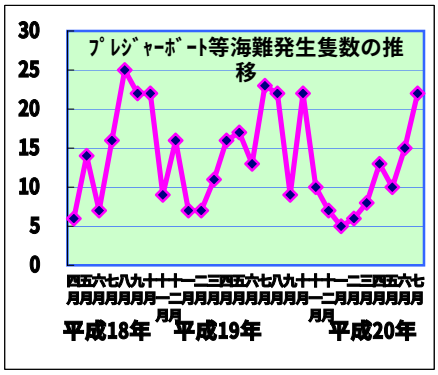
平成20年７月 プレジャーボート等海難発生隻数

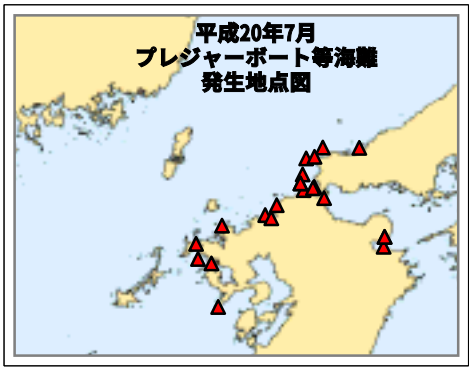
合　計	22隻
衝突	6
乗揚	1
転覆	1
浸水	2
推進器障害	3
舵障害	0
機関故障	4
火災	0
爆発	0
行方不明	0
運航阻害	5
安全阻害	0
その他	0



～事故からの教訓～

プールなどと異なり、海は波や潮の流れがあるため、泳いでいると身体に強い負担がかかり、知らない間に体力が奪われがちです。また、海には沖に向かう「離岸流」という流れがあり、気がつくと浜や岸から遠く離されてしまうというケースも少なくありません。また、海は大きな波が襲ってくることもあります。特に台風から生じた「うねり」がある時は、注意が必要です。平均的な高さの２倍もの波が発生するといわれています。常に気象情報を把握しておきましょう。水泳はかなりの体力を消耗する運動です。泳ぐ前に十分な休養が必要です。また、今回のように溺者を発見した時は、118番、119番通報と救助に行く時は浮き輪か空のペットボトルなど水に浮く物を持って救助に行きましょう。





花火大会見学時の注意

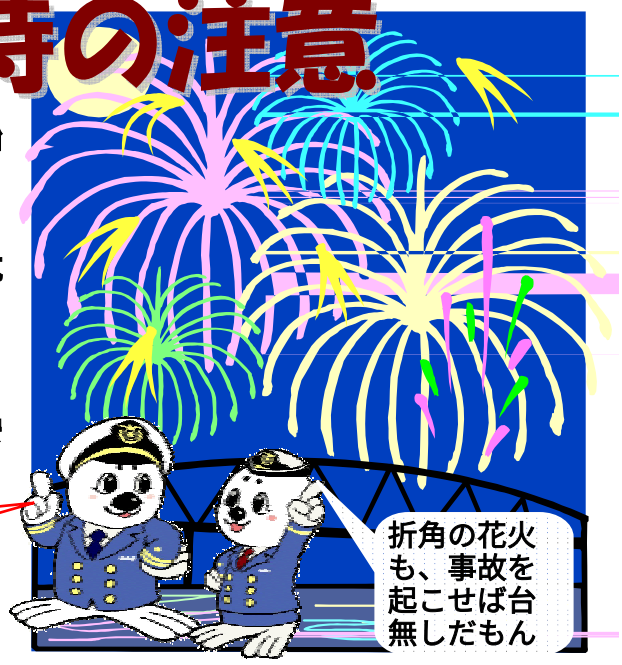
７，８月には全国各地で花火大会が開催されます。

船で見学される方もいると思いますが、例年、見学船の衝突や乗揚げ等の海難が発生しています。

当管区でも、８月に入って２隻が帰路中に海難を起こし、３名の方が怪我をしています。

夜間は周囲の風景が見えなくなり、岸壁や防波堤、航行船舶などの確認は、灯火による視認やレーダーに頼らざるを得なくなります。

夜間航行する際には、航行区域の海図などにより、コース上の目標や障害物を事前にチェックするとともに、航行中は速力を減じたり、見張りを増やすなどの安全航行に心掛け、海難を起こさず美しい花火を楽しみましょう。



海の相談室だより (七管本部海洋情報部)

－ 波 －

夏休みに入って、海水浴場は多くの人で賑わっています。
遠浅の海岸に出かけると、岸に平行な美しいうねりの波が何回も砕波を繰り返しながら押しては寄せる風景がよく見られます。このような海岸近くでの砕け波を磯波と呼びますが、砕波する波の高さと水深には関係があり、波の高さが目測できれば、その場所の水深を推測できます。波の性質や海底の勾配にも依存しますが、大雑把に言えば、波は波高に近い水深にやってくると不安定になって砕けてきます。砕け始める水深は、波高の1．3倍くらいのところになり、ここから岸までを磯（波帯）、サーフゾーンといいます。サーフィンでイメージする波頭が巻いている、チューブ状の「巻き波」は、深みからいきなり浅瀬になるサンゴ礁海域のような特有の地形と、ベーリング海や南極海生まれの波長の長いうねりが押し寄せるという好条件が重なる場合に生まれます。一方、遠浅の海岸では沖の方から何回も繰り返して白波を立てて崩れる波がやってきます。

沿岸海域における波の危険性

磯遊びでも岩棚や防波堤での釣りでも、大波がやってくることを常に念頭に置くことが必要です。釣り中に大波にさらわれる事例は数多くあります。こうした大波については
浅海域において急激に波が高くなる現象に伴う「磯波」
川の流れや防波堤からの返し波等が従来の波と合わさり発生する「三角波」
１００波に1波（有義波の1．6倍）、１０００波に1波（同2倍）の高波が発生する「一発波」
＊　約２０分間に1回1．6倍の、2～3時間に1回2倍
（有義波：観測した波高の高い順から全波数の1／3についての平均波高）
がそれぞれ発生すると言われます。

フリークウェイブ

外洋に突如として現れるフリークウェイブ（巨大波浪）の存在も知られています。これは一発大波、三角波などの名で何世紀も前から船員の間で恐れられてきました。
葛飾北斎が描いたといわれる、富嶽三十六景にも三角波が描き込まれています。

土用波

この時期、気を付けなければいけないのが、突然の大波、「土用波」ですが、台風からやってくる「うねり」のことで、夏の土用のころになると日本の南海上で台風が発生しやすくなります。昔から，夏から秋にかけて太平洋に面した海岸に押し寄せる高い波（うねり）を「土用波」と呼んで高波に対する注意を促していました。台風が日本から遠く離れていても台風の波が日本に押し寄せてきます。「土用波」は沖にある時はあまり目立ちませんが、海水浴場のように遠浅の海岸に入ると波が突然高くなります。海水浴場で穏やかな夏空が広がっていても「土用波」がやってくる事があります。

台風が日本の南にある時は「土用波」に気を付けて楽しい海水浴にしましょう。